

事例 31 山岳観光地における入山者に配慮した土石流対策

(中部森林管理局 中信森林管理署)



- ・長野県^{まつもと}松本市 ^{かみこうち}上高地国有林
- ・(左)上高地開山祭(令和7(2025)年4月)
- ・(右)開山祭の前に設置した強靱なワイヤーネット(令和7(2025)年3月)

上高地は、長野県松本市に位置する日本有数の山岳景勝地であり、年間150万人を超える観光客が訪れています。特に4月に開催される開山祭を皮切りに11月の閉山式までの期間に多くの観光客が訪れ、地域の貴重な観光資源となっています。

令和6(2024)年7月の豪雨により、上高地国有林の六百沢で土石流が発生し、治山ダム4基が被災しました。また、観光客が往来する梓川左岸沿いの歩道に土砂が流出し、歩道の通行に支障が出ました。

このため、中信森林管理署では、入山者が多くなる時期にも配慮したうえで、災害復旧工事に着手しました。令和6(2024)年度は、当面の安全確保のため、歩道の通行規制、土石流センサーや雨量計の設置等を行い、応急的な土石流対策として、観光シーズン前の3月末までに被災箇所には大型土のうや強靱なワイヤーネットを設置しました。

地域関係者が実施した歩道の復旧と併せ、災害復旧工事により安全が確保できたことから、開山祭の開催に向けて歩道の利用を再開させることができました。

同署では、引き続き関係機関と連携し、地域復興にも貢献できるよう入山者への安全に配慮した災害復旧工事に取り組んでいきます。